

養成人材

DEI（ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン：多様性・公平性・包摂性）に関する幅広い知識を基盤とし、DEIの視点から具体的な課題を発見・分析するとともに、リーダーシップやマネジメント能力を発揮しながら他者との協働をはかり、実践的な解決策を創出できる人材の育成を教育研究上の目的とする。

学位授与の方針

所定の教育課程を修め、学位論文及び特定課題レポートの審査及び最終試験に合格して、以下の能力を修得した者に、修士（学術）の学位を授与する。

- 1 様々な差異から生起する現象の複雑さを理解し説明できる能力
- 2 分野横断的な DEI 実践の知識の修得とそれらを活用する能力
- 3 自らのフィールドにおける DEI 課題を発見し、総合的かつ分析的に問題を把握する能力
- 4 調査法を理解・修得し、エビデンスに基づいた分析ができる能力
- 5 ダイバーシティ科学の学問的知見とエビデンスに裏付けられた具体的な課題解決策を提示しうる能力
- 6 多様な他者とコミュニケーションし、協働しながら課題解決に取り組める能力

教育目標

- 1 様々な差異から生起する現象の複雑性の理解・説明能力の修得
- 2 分野横断的な DEI 実践の知識・活用能力の修得
- 3 自らのフィールドにおけるDEI課題の探索能力の修得
- 4 調査法の理解・エビデンスに基づく分析能力の修得
- 5 ダイバーシティ科学の学問的知見とエビデンスに裏付けられた具体的な課題解決策提示能力の修得
- 6 他者との協働と実践能力の修得

年次	科目	到達目標	教育目標 1	教育目標 2	教育目標 3	教育目標 4	教育目標 5	教育目標 6
1	現代的課題と人権	・現代社会における様々な人権課題について横断的に考えることができる。 ・DEI（ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン）の視点が、現代社会における課題解決においてなぜ重要なのかを理解する。 ・自らの課題意識を表現し、他者の課題意識と結びつけて考えることができる。	◎	○				
1	インターセクショナリティ論	インターセクショナリティという概念がなぜ必要とされ、どのように発展してきたのか、その理論と社会的意義について、DEI（Diversity, Equity, and Inclusion）の実現という文脈に特化して高次に理解できるようになる。また、インターセクショナルな実際の社会的事象（時事問題等）を分析し、DEI 実現の課題を多面的に的確に説明できるようになる。	◎	○				
1	ケア論	ケア実践やケア関係に対する支配構造について理解を深め、ダイバーシティ社会実現に向けた基盤となるケアの倫理について検討できるようになる。	◎	○				
1	クィア理論	DEI（Diversity, Equity, and Inclusion）の実現になぜクィア理論が必要とされ、どのように発展してきたのか、フェミニズム運動や1960年代以降の性的マイノリティの人権獲得運動（社会運動）も射程に入れ、それらの理論とその社会的意義について、DEI 実現という文脈に特化して高次に理解できるようになる。また、その理論を応用して、ジェンダー/セクシュアリティをめぐる実際の社会的事象（時事問題等）についての語りをクィア理論を通して再解釈し、社会的課題を高次に的確に分析できるようになる。	◎	○				
1	社会運動論	社会運動の実践の歴史、および社会運動を論じる社会運動論の要点を理解し、自身の研究活動や思索に活かせるようになる。	◎	○				
1	障害学	障害を分析の切り口とする学問の射程と、その可能性について学び、特に社会科学側面からの障害の捉え方を獲得し、既存の知のあり方を問い直す視点を修得する。	◎	○				

1	多文化共生論	ミュージアムにおけるエスニシティ、人種、ジェンダーの表象に関する論文を読み、論点を的確に把握できるようになることを目指す。また、ミュージアムの展示を批判的に考察することについて学ぶことで、複雑な社会状況を適切に分析するための学術的な基礎力を養成する。	◎	○				
1	社会正義と排除と政治論	・社会正義の概念と基本理念を理解する ・制度的、人間関係両面から排除のメカニズムを分析する ・社会正義の枠組みをケアの倫理から見直す ・政治の役割を評価する ・DEIの視点から解決策を議論、提案する		◎	○			
1	多様性教育論	多様性に関する教育論である、インクルーシブ教育、クィアペダゴジー、多文化（異文化）教育の理論の交差的な到達点と課題を説明できるようになる。また、インターセクショナルな実際の教育的事象（教育問題等）を分析し、DEI（Diversity, Equity, and Inclusion）の実現という文脈に特化して高次に課題を説明できるようになる。		◎	○			
1	社会福祉とウェルビーイング	日本が行ってきた優生保護法の歴史と、福祉政策の歴史的文書を読み返すことで、社会福祉政策が、いかに人のあり方や関係性のあり方を規定してきたのかを学び、この先の多様な関係性のあり様に立脚した政策のあり方について考えられるようになる。		◎	○			
1	科学技術と人間	科学技術の発展の経緯を、歴史的な背景や各国事情もふくめた多様な視点から修得する。イノベーションに向けた科学技術利用の課題を考察できる。		◎	○			
1	ダイバーシティマネジメント論	1) 日本のダイバーシティマネジメントの現状と課題について説明できる 2) 組織や人材開発、法制度に関連する事柄を整理し、体系的にダイバーシティマネジメントを捉えることができる 3) 自らの経験を援用することで授業内容を発展させ、各自のフィールドでの課題意識を探究できる		◎	○			
1	防災・災害学とグローバルジャスティス	自然科学、及び社会科学の側面から多角的に災害について捉えると同時に、災害リスクとジェンダー多様性の課題について学び、災害リスク削減に向けた現代的課題を捉えられるようになる		◎	○			
1	生物多様性とネイチャーポジティブ	生物多様性の概念を自然科学の側面から深く理解した上で、ネイチャーポジティブの実現に向けて社会科学の視点から考察を深める。生物多様性に関する科学的事象を多角的に分析し、社会問題解決に向けて主体的に行動できるようになる。		◎	○			
1・2	文化とアイデンティティ	アメリカ合衆国のエスニシティ、人種、ジェンダー、階級、宗教などに関する論文を読み、論点を的確に把握し、議論できるようになること。様々なディシプリンの文献を読むことで、視覚資料分析やフィールドワーク等の方法論について学ぶこと。 アメリカ合衆国における多文化性に関連する、または影響を受けた課題を各自の研究関心に関連づけ、先行研究を整理し、把握すること。		◎	○			
1・2	フェミニスト経済学	フェミニスト経済学の理論・実証研究の知見を身につけ、自らの修士論文執筆に役立てる。		◎	○			
1・2	労働とジェンダー	日本的雇用システムと女性の位置づけを理解する。		◎	○			

1	平等／差別と法	<p>① 法律の分野における「平等」の意味につき、歴史的な背景および実質的平等・形式的平等の違いを踏まえつつ、説明できるようになる。</p> <p>② 法の下での平等を定めた日本国憲法 14 条が裁判所によってどのように解釈されているか、具体的な事案を踏まえて説明できるようになる。</p> <p>③ 私人間（特に労働関係）における差別の問題に対して、憲法・法律がどのように対応しているか、説明できるようになる。</p> <p>④ 家族内の平等や性的マイノリティに関わる法律問題について、知識を深め、説明できるようになる。</p> <p>⑤ DEI の理念に照らし、法制度や判例のもつ構造的排除の側面を批判的に分析する視点を身につける。</p> <p>⑥ 障害者基本法、障害者差別解消法、LGBT 理解増進法、各自治体のパートナーシップ条例など、DEI に関連する個別の法令について、知識を深め、説明できるようになる。</p>			◎	○			
1	社会調査法 A (社会調査)	<p>1) DEI の観点から社会調査の意義と基本的な考え方を説明できる。</p> <p>2) 調査法の基礎を理解し、研究の目的に合う適切な調査方法を選択できる。</p> <p>3) DEI を意識した調査倫理を理解し、それに基づいて、調査計画を立て、研究を遂行できる。</p>					○		
1	社会調査法 B (統計)	<p>1) DEI 課題を検討するにあたって、適切に統計分析の結果を解釈することができる</p> <p>2) 調査票設計から集計・分析まで、取り扱う DEI 課題に適した量的データを各自調査課題に応じて適切に扱うことができる</p>					○		
1	社会調査法 C (フィールド調査)	<p>受講者が、エスノグラフィー調査やアクションリサーチを含むフィールド調査に関する知識と、具体的な調査スキルや分析方法を修得し、各自の調査研究計画に活かすことを目標とする。</p>					○		
2	ダイバーシティ政策科学 I	<p>多様な社会課題とその解決に向けた取組等を通して、複雑化している現在のなかで必要となる社会政策のあり方やその課題、また、その決定プロセス、評価システムのあり方やその課題について検討できるようになる。</p>			◎		○	○	
2	ダイバーシティ政策科学 II	<p>各自が、ダイバーシティ政策に係る検討課題を設定し、深めると共に、異なる課題・フィールドについての研究を提示し合うことで、多角的な視点からのダイバーシティ政策についての分析・検討ができるようになる。</p>					◎	○	
2	ダイバーシティ人間形成論 I	<p>人間の多様性と教育の原理を理解した上で、現実のインターセクショナルな教育課題を発見し、研究課題を明らかにすることができる。研究課題にあった対象（フィールド）において、データを収集し、分析する理論とスキルを習得する。</p>			◎		○	○	
2	ダイバーシティ人間形成論 II	<p>人間の多様性と教育の原理を理解した上で、現実のインターセクショナルな教育課題を発見し、研究課題を明らかにすることができる。研究課題にあった対象（フィールド）において、データを収集し、分析する理論とスキルを習得する。</p>					◎	○	
2	ダイバーシティイノベーション I	<p>科学技術社会論の基本的な考え方を修得する。</p> <p>科学を教育、法学、ジェンダーなど他領域との関連から説明できる。イノベーションに向けた科学技術利用の課題を考察できる。</p>			◎		○	○	

2	ダイバーシティイノベーションⅡ	イノベーションとは何か、その評価方法も含めて説明できる。 多様性について理解し、イノベーションとの関連を考察できる。 ジェンダード・イノベーションの現状と課題を理解している。 上記を踏まえた上で、自分の関心領域をイノベーションとダイバーシティとの関連で整理し、報告できる。					◎	○
2	ダイバーシティリーダーシップ論Ⅰ	(1) リーダーシップについてその本質的意義を説明できるようになること (2) リーダーシップという概念を通じて社会事象を分析的に見られるようになること (3) リーダーシップをきっかけにして、自己理解を深め、自らが社会にとって必要な存在であることを認識できるようになること (4) 多様性という概念を突き詰め、インクルーシブ・リーダーシップとは何かを自分の言葉で説明できるようになること			◎		○	○
2	ダイバーシティリーダーシップ論Ⅱ	(1) リーダーシップについてその本質的意義を説明できるようになること (2) リーダーシップという概念を通じて社会事象を分析的に見られるようになること (3) リーダーシップをきっかけにして、自己理解を深め、自らが社会にとって必要な存在であることを認識できるようになること (4) 多様性という概念を突き詰め、インクルーシブ・リーダーシップとは何かを自分の言葉で説明できるようになること					◎	○
2	バイオダイバーシティ論Ⅰ	生物多様性に関する基礎概念を明確に捉える。人間社会との共存の視点から生物多様性保全の方策を検討し、積極的に討議に参加できる。			◎		○	○
2	バイオダイバーシティ論Ⅱ	持続可能な社会の実現に向けて、生物多様性保全の方略に関する知識・技能を身につけ、自分の考えを客観的に整理して論考できるようになる。					◎	○
1	課題研究演習Ⅰ	*各受講者が「基礎理論科目」での学修を活かし自身の「DEI課題」を発見することができる。 *各受講者がDEI/人権関連データベースやシステムティック・レビューを活用し自身の「DEI課題」を明確化することができる。*各受講者が自身の「DEI課題」の発表と交流を通し、他者と協働的に議論を深めることができる。				○		◎
1	課題研究演習Ⅱ	*各受講者が「基礎理論科目」や「基礎課題科目」での学修を活かし自身の「DEI研究課題」を設定することができる。 *各受講者が自身の「DEI研究課題」に適した研究計画（「フィールド/分野」や「研究方法」の選定など）の見通しを持つことができる。*各受講者が自身の「DEI研究課題」の発表と交流を通し、他者と協働的に議論を深めることができる。				○		◎

2	課題研究演習Ⅲ	<p>*各受講者が「専門課題科目」での学修を活かし、自身の「DEI 研究課題」に関連する先行研究のレビューを通して、修士論文あるいは特定課題レポート執筆への見通しを持つことができる。</p> <p>*各受講者が自身の研究の進捗状況を把握・報告し、他者からのフィードバックを基に必要な調整や変更を行い、主体的に研究を遂行することができる。</p> <p>*各受講者が先行研究のレビューや研究計画の進捗状況に関する発表と交流を通じ、他者と協働的に議論を深めることができる。</p>					◎	○
2	課題解決演習Ⅳ	<p>*各受講者が「専門課題科目」での学修に基づき、自身の「DEI 研究」の成果を発表し交流する活動を通して、修士論文あるいは特定課題レポート執筆の基盤を培う。</p> <p>*各受講者が自身の研究の進捗状況を把握・報告し、他者からのフィードバックを基に必要な調整や変更を行い、主体的に研究を遂行することができる。</p> <p>*各受講者が先行研究のレビューや研究計画の進捗状況に関する発表と交流を通じ、他者と協働的に議論を深めることができる。</p>					◎	○